

三番瀬・海辺のボランティア講座 「冬の干潟観察会 & ベントス調査」

2011年1月22日(土)

場所／三番瀬塩浜案内所 東浜

<スケジュール>

- 10:00 集合、レクチャー、三番瀬海浜公園へ移動
- 10:30 東浜で干潟観察と生物調査
- 12:00 案内所へ移動、昼食
- 13:00 ソーティング、まとめ
- 15:00 終了

主催／特定非営利活動法人 三番瀬環境市民センター

No.14 三番瀬にやってくる水鳥

2011.1.22

鳥たちが三番瀬にやって来る目的の第一は、エサを探ること。干潟にいる魚、カニ、ゴカイや海藻は鳥のエサになります。たくさんの鳥がやってくるのは、三番瀬が豊かである証拠なのです。

①三番瀬で見られる水鳥

三番瀬には、シギ・チドリの仲間がたくさんやってきます。そのほか、カモ、サギ、カモメの仲間が見られます。しかし、1年中同じ鳥が見られるわけではありません。季節によって4つのグループに分けられます。

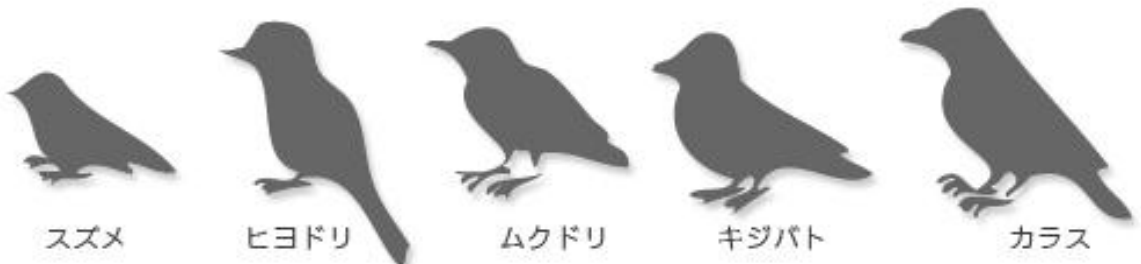
- ・夏鳥……冬は赤道付近で過ごし、夏は三番瀬周辺で過ごすもの
コアジサシ、コチドリなど
- ・冬鳥……夏はシベリアなどで過ごし、冬は三番瀬周辺で過ごすもの
スズガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ハマシギなど
- ・旅鳥……シベリアとオーストラリアの旅の途中、春と秋に三番瀬に立ち寄るもの
キアシシギ、トウネン、メダイチドリなど
- ・留鳥……渡りのような大きな移動をしないもの
カワウ、サギ類 など

②鳥を見分けるコツ

(1) 大きさ

身近にいるスズメ、ムクドリ、キジバト、カラスなどを「ものさし鳥」として比較すると便利。「スズメくらいの大きさだった」「カラスくらいだった」と大きさを表現します。

<ものさし鳥>



(2) 体型

野鳥はそれぞれの種類によって姿、形が違います。カモの体型、サギの体型など代表的な野鳥の体型を覚えておくと、その野鳥が属するグループが見分けられます。また、歩き方など、どんなしぐさをしていたか、あるいは目立った身体の色や模様、くちばしの形なども重要な情報です。さらに、野鳥を見た時期、場所、環境もその鳥の名前を知る手がかりになります。

③観察のポイント

野鳥を観察するとき、そこで何をしているのかに注目してください。歩いているのか、泳いでいるのか、何かを食べているのか、休んでいるのか。食べているエサは何か、よく観察してください。じっくり観察することでさらにその鳥の生活を知ることができるし、その野鳥を取り巻く多くの生き物や環境も知ることができます。自然がどのような仕組みでいるのかを知ることが大事なのです。



スズガモ



コサギ



ハマシギ



キョウジョシギ



チュウシャクシギ



ミヤコドリ

三番瀬・海辺のボランティア講座 第11回報告書

冬の干潟観察会&ベントス調査

1. 日時、場所

実施日／平成23年1月22日（土）

時間／10：00～15：00

場所／三番瀬塩浜案内所 三番瀬東浜

2. 参加者

海辺のボランティア 7名

NPO三番瀬 4名

3. スケジュール

時間	内容
10：00	三番瀬塩浜案内所に集合 レクチャー
10：30	ふなばし三番瀬海浜公園東浜へ移動
	干潟観察、ベントス調査
12：00	三番瀬塩浜案内所へ移動
12：30	昼食
13：00	ソーティング まとめ
15：00	解散

4. 当日の様子

	
<p>初めての冬の干潟です</p>	<p>三番瀬には冬の渡り鳥がたくさんきていました</p>



プロミナーで観察します



しぎ・チドリの仲間、カモの仲間、ミヤコドリなどが観察できました



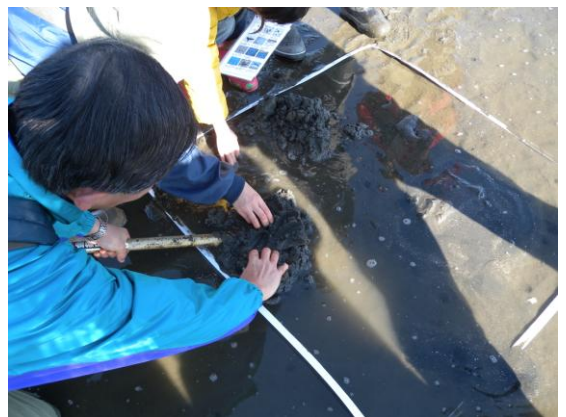
調査です。まず水温と気温を測りました



1 m 四方の枠の中にある生物を調べます



みつけた生物はすべて記録します



枠の中を掘り返して出てきた生物を調べます



ゴカイの卵がありました



干潟の砂を取り出します



ふるいに受けます



砂をふるって、残ったものを持ち帰ります



案内所に戻ってソーティングをします



生物を同定します

調査のまとめ

1. 調査日

2011年1月22日(土)

2. 調査地

東京湾三番瀬 東浜

ポイント

緯度 N35d 40m 14.5s

経度 E139d 57m 46.1s



3. 調査者

- ・三番瀬海辺のボランティア

小林邦彦 尾崎修二 金光なつき 金光弥思 金光弥慧 樽本久子 河原裕恵

- ・特定非営利活動法人 三番瀬環境市民センター

石塚誠 福士融 ボーデン香 小川洋 町田恵美子

4. 調査方法

- ・干潟で観察した生物の種類を調べた

- ・表面調査／掘り返し調査

調査ポイントを決め、1mの枠を置いて、その中で観察できる生物の種類と数、また生物の活動の痕跡の種類と数を調べた。その後、スコップを使って深さ20cmまで掘り、砂の中から出てきた生物の種類と数を調べた。

- ・採泥調査

調査ポイントを2箇所決め、それぞれで直径10cmのコアサンプラーで30cmまでの採泥を3回行い、1mm目のふるいでふるい、残った生物を採取した。採集した生物は、ソーティング(拾い出しと分類)して、NPO三番瀬が標本にして、同定(生物の名前をつけること)と定量(数を数えて、重さを量ること)をした。

調査場所 三番瀬東浜



緯度 N35d 40m 15.2s
経度 E139d 57m48.1s



調査ポイント



緯度 N35d 40m 14.5s
経度 E139d 57m 46.1s

観察できた生物

貝の仲間	
	シオフキ
	マテガイ
	マガキ
クラゲの仲間	
	カブトクラゲ
ゴカイの仲間	
	ゴカイの卵塊
海藻の仲間	
	イギス
	オゴノリ
鳥の仲間	
	ミヤコドリ
	ハマシギ
	セグロカモメ
	ユリカモメ
	スズガモ
	ミユビシギ
	シロチドリ
	オナガガモ

天気：晴れ 気温：8℃ 水温：12度

表面調査

	1回目	2回目	3回目	4回目	合計
オゴノリ		1		2	3
イギス		1	2	1	4
穴	31	56	53	37	177
鳥の足跡	多い	多い	多い		
スズガモの糞			3		3

掘り返し調査





	1回目	2回目	3回目	4回目	合計
シオフキ	1			2	3
ゴカイ		1	1		2

採泥調査

出現種

		ポイント1			
		個体数	質重量(g)		
貝の仲間	アサリ	3	7.743		
	マテガイ	1	6.038		
ゴカイの仲間	イトゴカイの一種	2	0.006		
	ツツオオフェリア	7	0.053		
	チロリ	1	0.026		
	アシナガゴカイ	1	0.016		
	スピオの一種	2	0.017		
	シリスの一種	2	0.010		
	ゴカイの一種	2	0.021		
その他の生き物	ヒモムシ?	1	0.007		

	<p>アサリ</p>
	<p>マテガイ</p>
	<p>イトゴカイの一種</p>
	<p>ツツオオフェリア</p>
	<p>チロリ</p>

	アシナガゴカイ
	スピオの一種
	シリスの一種
	ヒモムシ?